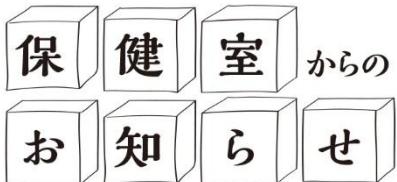




令和8年2月2日
山口大学教育学部附属幼稚園
保健室

「東風」と書いて何と読むか知っていますか。東から吹いてくる風をさして「とうふう」「ひがしかぜ」と読みますが、「こち」と読む場合があります。「こち」と読むときは、早春に吹く温かい、春の訪れを知らせる風とされています。寒くても外に出て東風を感じてみましょう。



「アレルギーに関する調査」の記入のお願い

花組と風組の保護者の皆さんに「アレルギーに関する調査」を配付しています。アレルギー疾患を有するお子さまがより安心、安全な園生活を送ることができますよう努めてまいりますので、ご協力をお願いします。今年度からアレルギー面談の時期を変更しました。詳しい内容は配付したプリントをご覧ください。締め切りは、2月6日(金)です。よろしくお願いします。

附属幼稚園の子どもたち

田原先生による

からだのおはなし会

1月20日(火)に田原先生による「からだのおはなし会」を行いました。

田原先生から「からだの中にどんなものがあるかな?」の間に、たくさんの内臓を答えることができた星組さん!からだのことに興味関心が高く、田原先生もびっくりされていました。

その後、聴診器で「お友だちの心臓はどこにあるかな?」と探してみました。子どもたちは、心臓の音が聞こえると嬉しそうに「生きている!!」と答え、改めて生きている実感をした時間でした。また、食べたものがうんちになるために通る道(内臓)をみんなと一緒に確認しました。

最後に田原先生と看護師さんに質問タイムがありました。Q「なぜあっかんべーをしたときに、目(眼瞼の裏)が赤いの?」→A「やなせたかしの有名な曲知っていますか?『手(て)のひらを太陽(たいよう)に すかしてみればまっかに流(なが)れる ぼくの血潮(ちしお)』この歌詞の意味のように、粘膜の下に血管がたくさんあるから赤く見えます。赤ちゃんというのはなぜか知っていますか?赤ちゃんは皮膚が薄いため血管の色が表いでやすいから赤ちゃんといいます。」Q「なぜ爪があるの?」→A「指先で細かいことができるるように守っています。そのために、爪はきれいにしておきましょう。」Q「心臓よりも脳のほうが大事なの?」→A「現状では、心臓の具合が悪いときには心臓移植の治療はあるが、脳の移植は成功したことはありません。けど、両方ないと生きていけないから両方大事です。」Q「どうして骨がおれるの?」→A「からだを支えるために骨は固くできています。引っかかってしまうと曲がり切れなくなり、ぽきっと折れてしまいます。若いときはぐにゃと折れます。骨が丈夫になるためにも規則正しい生活をしてください。」

はみがきカレンダー



“はみがきカレンダー”をやってみた子どもたちの感想を聞いてみると、「楽しかった!」と答えてくれました。はみがきカレンダーを見てくれたお友だちありがとうございます。みんなががんばった“はみがきカレンダー”を附属特別支援学校の生徒さんにも見てもらおうと思います。もしかしたらお返事があるかも…楽しみですね。

